

FUJI BUSINESS REPORT

FUJI ビジネスレポート

第52期

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで



夢見る人に次々と。
ヒト味違う
“オモシロ”さ！

 株式会社 藤商事



(証券コード 6257)



さらなる成長へ向けて、 藤商事は変わり続けます。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。当社は現在、キーワード「変わる挑戦」のもと、今までの常識や慣習にとらわれず、新たな発想やアイデアをカタチにするため、私たち自身も変わり続けることに挑戦しています。

ファンの皆様、ホール様にとって魅力あふれる商品の提供を通じて、さらなる成長を目指してまいりますので、株主の皆様におかれましては、より一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

井上 孝司

市場動向と平成29年3月期の総括

Q1 当業界の現状と重点課題の達成状況を含め、総括をお願いします。

A1 「稼働力の追求」では一定の成果を得ましたが、「利益体質の強化」は課題を残す結果となりました。

現在の当業界は、参加人口ならびに店舗軒数が減少傾向にあり、ホール様の経営環境は依然として厳しい状況であることから、遊技機の購入についても安定稼働が見込める実績を備えた機種に需要が集中する傾向にあります。

こうした状況のなか、当社は、ものづくりに対する今までの常識や慣習にとらわれることなく、自らが変化に順応するために「変わる挑戦」をテーマとして、「稼働力の追求」と「利益体質の強化」に取り組んでまいりました。

まず、「稼働力の追求」については、当社の得意とする

時代劇をモチーフにした新規タイトル機種「CR遠山の金さん 二人の遠山桜」を投入し、シニア層のファンの皆様を中心として比較的安定した稼働を維持し、ホール様からも一定の評価を得る事ができたと考えております。そのほか、「CR戦国十恋姫」での新規性あるスペックが高稼働に結びついたことや、「CR緋弾のアリアII」では前作に続いて好調な稼働を維持したことで、シリーズ機種として次につながる稼働実績を残せたと考えております。

一方で「利益体質の強化」につきましては、下半期に厳しい商戦を強いられたことで販売台数、売上高が大幅に減少したことにより、大変不本意ながら、損失を計上する結果となりました。

今後も厳しい市場環境が見込まれますが、その中でも着実に販売台数を確保できるよう、商品力のさらなる強化はもとより、市場動向の把握や各商戦での販売戦略に対する取り組みを強化してまいります。

平成30年3月期の取り組み

Q2 次期の重点課題を教えてください。

A2 商品力向上に加えて、トータルのコストコントロールの強化を図ります。

業績計画の要となる販売台数を確保するうえで、機種開発力および利益体質の強化は必要不可欠であり、最重要課題と位置づけて取り組んでまいります。

機種開発については、稼働実績を残した機種の徹底的な要因分析を行ない、開発中の遊技機にスピーディーに反映することをはじめ、著作権の持ち味を生かしたタイプアップ戦略、斬新な演出、アイデアの採用、新ジャンルの確立など、以前からの継続的な課題をさらに深掘りして、商品力のさらなる強化に取り組んでまいります。

また、利益体質の強化については、リユース活動のほか、機種開発および部材選定など、費用項目の見直しや、パチスロ新工場の稼働による製造工程の効率化も図ってまいります。その他、営業活動における広告宣伝費の効果的な活用など、各部門のトータルのコストコントロールを行ってまいります。

このような取り組みのもと、平成30年3月期については、当社が誇るホラータイトルをはじめ、過去に稼働実績を残したタイトルを中心とした販売ラインナップのもとに、業績のV字回復を図ってまいります。

株主還元

Q3 配当政策についてお聞かせください。

A3 適正な利益還元を継続し、信頼される企業を目指します。

当社は、継続した配当を基本方針としつつ、経営成績および配当性向などを総合的に勘案して実施してまいりたいと考えております。平成29年3月期の1株当たり配当金につきましては、25円の間配当を実施済みであり、期末配当金については、当社50周年を記念して特別配当10円を加算し、35円とさせていただきます。

なお、平成30年3月期の1株当たり配当金は普通配当のみで、通期で50円を予定しており、業績予想に基づく配当性向は71.8%となります。

今後とも株主の皆様のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

業績ハイライト

販売台数 **97,800** 台 (対前年同期比 11.7%減)
(パチンコ遊技機・パチスロ遊技機合計)

売上高 **32,953** 百万円 (対前年同期比 13.7%減)

営業損失 **2,271** 百万円

経常損失 **2,280** 百万円

当期純損失 **1,944** 百万円

次期の重点課題

キーワード「変わる挑戦」

ものづくりに対する今までの常識や慣習にとらわれることなく、自らが変化に順応する

【機種開発】

- 高稼働実績の要因を徹底的に分析し、開発中の機種へフィードバック
- 著作権の持ち味を活かしたタイプアップ戦略
- ファンの皆様の好奇心を満たす演出やアイデアなどを積極的に採用
- 新ジャンルの確立や独自性の追求など、差別化された商品性の実現

【利益面】

機種開発から部材調達および製造、営業活動に至るまでのトータルのコストコントロールを強化

その他トピックス

50周年記念配当の実施

- 継続した配当を基本方針とし、経営成績および配当性向等を総合的に勘案
- 平成29年3月期1株当たり配当金は、普通配当50円に創立50周年記念配当10円と合わせて60円を実施

2017年夏 主力ホラータイトルを
パチンコ・パチスロタイアップで同時発売！
開発担当者からの熱いメッセージをお届けします！



CRリング 終焉ノ刻
平成29年7月発売

© 1999 鈴木光司 発行・株式会社KADOKAWA 角川書店
© 1998「リング」「らせん」製作委員会
© 1999「リング2」製作委員会



かつてない最恐と、
ただならぬ最驚と。



パチスロ リング 終焉ノ刻
平成29年6月発売

© 1998「リング」「らせん」製作委員会

開発者担当者の意気込み（パチンコ編）

新たなサプライズに挑戦し、
藤商事らしさを追求。

初代「CRリング」から通算4機種目、そして10年という節目にあたる本機種は、これまでにないサプライズを搭載し、かつホラーパチンコならではのアイデアを全て集約した機種となりました。井戸をモチーフとした専用サイドユニットで今にも出てきそうな貞子を感じていただきながら、新規デバイスによる新たな刺激、そして遊技者参加要素を取り入れた新たなサプライズなど、シリーズファンをより一層魅了する機械が出来上がったと自負し

ています。「ホラーといえば藤商事、そして「リング」といえばサプライズ」と思っていただけに今後も新たなサプライズに挑戦していきます。



開発者担当者の意気込み（パチスロ編）

パチスロ独自の演出で、
今までにない「驚き」と「恐怖」を提供。

前作「パチスロ リング 呪いの7日間」のファンを受け、プレイヤーがパチスロに何を求めているか、「リング」に何を求めているかを考え、スペック・ゲーム性を組み立て、試打ちとブラッシュアップを繰り返しました。

「継承と進化」をキーワードに、「パチスロ リング」にしかできない新たなサプライズを追求しております。独自のホラー表現の恐怖感と当たるかもしれないというドキドキ感をリンクさせた前兆演出や、パチスロ初の「風」で



大当たりを体感できる「ラッキーエア」など、不意に訪れる衝撃の告知はもちろん、パチスロ独自の「違和感」を当たりに結びつける「気づきの演出」と「恐怖演出」を融合し、全ての「リング」ファンの方に今までにない驚きを体感して頂けると幸いです。

当期の発売機種

Main Lineup

パチンコ



©東映



販売台数
24,500台
平成28年6月発売

CR 遠山の金さん 二人の遠山桜

誰もが知るテレビ時代劇の名作「遠山の金さん」をモチーフに、二人の主役が大活躍。四代目の杉良太郎と、五代目の高橋英樹の二人がこの一台に集約！ゲーム性も派手なアクションを楽しみたいプレイヤーには縦スクロールの「杉良太郎モード」、シンプルな演出を楽しみたいプレイヤーには横スクロール5ラインの「高橋英樹モード」を選択できるなど、1台でふたつのゲーム性を楽しめます。



©2002「仄暗い水の底から」製作委員会



販売台数
20,000台
平成28年7月発売

CR 仄暗い水の底から

映画「リング」の原作者・鈴木光司氏と中田秀夫監督の名コンビが2002年に映画化した大ヒットホラー映画「仄暗い水の底から」とのタイアップ機。「ひたひたと忍び寄る、じわじわと迫り来る…、狂乱と絶望が入り混じる恐怖の果てに…。かつてないパチンコ体験は、底知れぬ静寂に行き着く…。」極限シーンで描かれる母と子の愛が胸を打つ、恐怖と感動の「物語」を完全再現しています。

パチスロ

パチスロ ロリポップチェーンソー

2012年に発売され、チェーンソーを持った美女が活躍する異色ゲーム人気アクションゲーム「LOLLIPOP CHAINSAW」がパチスロ機に！スペックは「A+ARTタイプ」を採用し、ARTの継続の鍵を握るロリポップ(キャンディー)がなくなるまでARTが継続するという新感覚のARTを体感できます。



販売台数
1,100台
平成28年11月発売

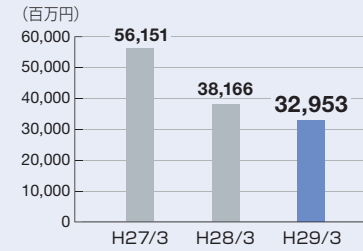


©KADOKAWA GAMES / GRASSHOPPER MANUFACTURE. Official Licensed Product of WARNER BROS. ENTERTAINMENT INC.(s16)

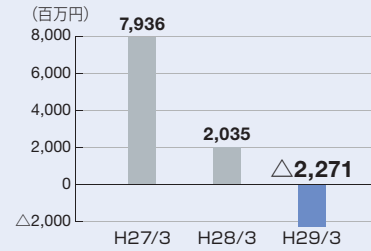
財務の詳細は当社ホームページの「投資家情報」をご覧ください。

藤商事 検索

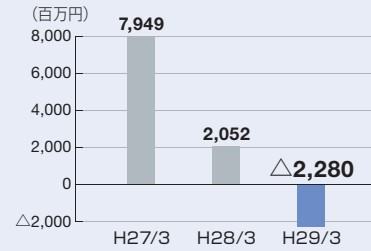
売上高



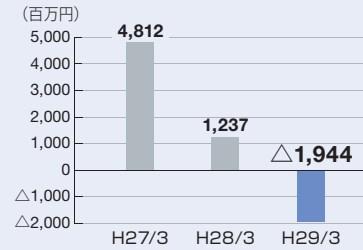
営業利益



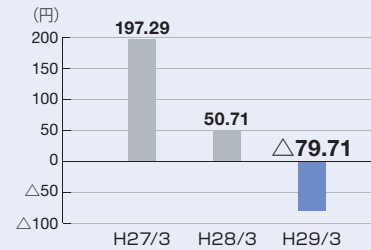
経常利益



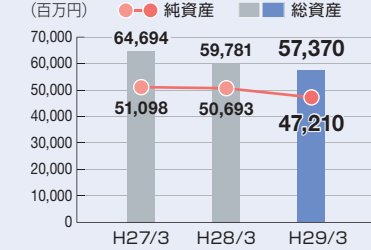
当期純利益



1株当たり当期純利益



純資産/総資産



貸借対照表

単位：百万円

科目	平成28年3月期 (H28.3.31現在)	平成29年3月期 (H29.3.31現在)
資産の部		
流動資産	42,635	38,545
固定資産	17,145	18,824
有形固定資産	6,973	10,078
無形固定資産	128	211
投資その他の資産	10,043	8,534
資産合計	59,781	57,370
負債の部		
流動負債	7,752	8,538
固定負債	1,335	1,620
負債合計	9,087	10,159
純資産の部		
株主資本	50,082	46,918
評価・換算差額等	610	291
純資産合計	50,693	47,210
負債純資産合計	59,781	57,370

損益計算書

単位：百万円

科目	平成28年3月期 (H27.4.1~H28.3.31)	平成29年3月期 (H28.4.1~H29.3.31)
売上高	38,166	32,953
売上原価	19,622	17,370
売上総利益	18,543	15,583
販売費及び一般管理費	16,508	17,855
営業利益	2,035	△2,271
営業外収益	152	130
営業外費用	134	139
経常利益	2,052	△2,280
特別利益	8	4
特別損失	8	231
税引前当期純利益	2,052	△2,507
法人税、住民税及び事業税等	430	57
法人税等調整額	384	△619
当期純利益	1,237	△1,944

キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科目	平成28年3月期 (H27.4.1~H28.3.31)	平成29年3月期 (H28.4.1~H29.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,559	△5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,070	△3,769
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,220	△1,219
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△7,850	△4,993
現金及び現金同等物の期首残高	33,638	25,788
現金及び現金同等物の期末残高	25,788	20,794

平成30年3月期業績予想

通期	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
	50,000	51.7	2,500	—	2,500	—
通期	当期純利益		1株当たり当期純利益	1株当たり年間配当金		
	百万円	%	円	円	円	
	1,700	—	69.68	(合計)	50.00	

(%表示は、対前期増減率)
(配当金は、中間・期末各25円を予定)

会社概要

設立 昭和41年10月1日
 本社 大阪市中央区内本町一丁目1番4号
 従業員数 468名
 事業内容 遊技機(パチンコ・パチスロ機)の開発・製造・販売
 デジタルコンテンツの企画・開発・販売・配信

役員

代表取締役会長 松元邦夫
 代表取締役副会長 松元正夫
 代表取締役社長 井上孝司
 取締役 米田勝己
 取締役 當仲信秀
 取締役 今山武成
 取締役 坪本浩一郎
 取締役 川添嗣夫
 常勤監査役 水嶋延和
 常勤監査役 上垣内崇夫
 監査役 堀弘二
 監査役 川島育也

事業所

名古屋事業所(名古屋工場および開発部)

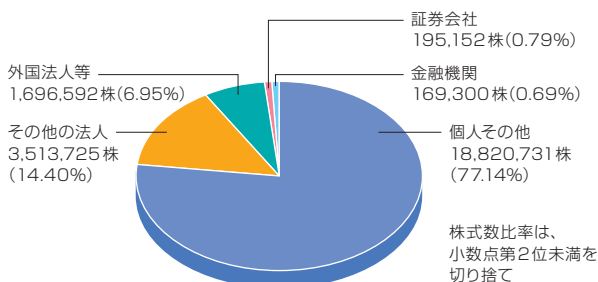
東京開発事業所

仙台支店	札幌営業所	金沢営業所
埼玉支店	青森営業所	京都営業所
東京支店	高崎営業所	神戸営業所
名古屋支店	千葉営業所	広島営業所
大阪支店	横浜営業所	高松営業所
福岡支店	八王子営業所	熊本営業所
	静岡営業所	鹿児島営業所

株式の状況

1) 発行可能株式総数 80,000,000株
 2) 発行済株式の総数 24,395,500株
 3) 株主数 8,070名

所有者別株主分布



4) 大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
松元 邦夫	6,656,000	27.28
松元 正夫	6,562,600	26.90
株式会社松元ホールディングス	2,900,000	11.88
松元 香揚子	700,000	2.86
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	345,997	1.41
サン電子株式会社	290,800	1.19
藤商事従業員持株会	272,300	1.11
松元 恵子	260,000	1.06
吉田 嘉明	217,000	0.88
J.P. MORGAN SECURITIES LLC-CLEARING	155,700	0.63

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会 毎年3月31日
 期末配当 毎年3月31日
 中間配当 毎年9月30日
 その他必要がある時は、予め公告して定めた日

株主名簿管理人および
 特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人
 事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 ☎ 0120-782-031

ホームページ <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

公告方法 当社のウェブサイトに掲載致します。
 (http://www.fujimarukun.co.jp)
 ただし、事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載致します。